

2012年度 ATJ体験記

氏名：K. M.

卒業年月：2012年3月 卒業学部・学科：生活科学部 人間生活学科

派遣先学校名：Rosebud Secondary College

ATJの期間：2012年4月15日～2013年3月1日（更新なし）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

渡航の一か月前くらいに日本文化についての本を少し読みましたが、オーストラリアへ行ってからの方が、日本にいたときよりも日本文化を学んだような気がします。学校の日本語教師の先生にお借りした、日本料理が英語のレシピで書かれている本がとても役に立ちました。日本文化を英語で紹介できるよう準備しておく、とても役に立つと思います。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

渡航手続きは約3ヶ月

③ ATJとして経験した具体的業務

日本語のクラスの補助、高校三年生の受験の手伝い、教材作り

④ ATJ以外の活動

家庭科のクラスの見学、調理実習

⑤ ホームステイ

本来なら一学期ごとにステイ先が変わるはずでしたが、ステイ先が見つからず、一年間同

じ家庭にステイさせてもたいました。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

日本でいつも飲んでいる薬があったら持って行くこと。持っているだけでも安心。

⑦ 長期休暇の過ごし方

ATJの友だちと旅行、一人旅行、ホストファミリーと一緒に過ごす。

II. ATJの感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

旅行。ATJの友達とケアンズへ行ってスキューバダイビングに挑戦したことが最も楽しかったです。オーストラリアのホリデーはとにかく長いです。休みを有効に使うためには、旅行が最もお勧めです。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

特に辛かったことはありませんでしたが、日本食は恋しかったです。日本人の先生のうちはお邪魔して、日本食を食べさせていただくこともよくありました。スーパーで日本食材はほとんど揃いますが、少し値段が高いので頻繁には食べることはできませんでした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

学校のスタッフ、ホストファミリー、街の人など、どの人もマイペースでビックリしました。きっと国民性だと思います。日本のようにスムーズにいかなくても、焦らず気長に待つことをおすすめします。

Ⅲ. A T J参加希望者へのアドバイス

- ① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコン

授業の教材作りにとっても役に立ちました。また、ホストファミリーに日本の様子を写真で見せたり、航空券の予約をしたり、様々なことに活用しました。

スマートフォン

私がホームステイさせていただいた家は、非常に wi-fi 環境が整っていたので、スマートフォンで気軽にインターネットを使ったり、動画を見たり、Facebook で友達とやり取りをするのに便利でした。

- ② これから A T J に参加しようと思っている後輩へのアドバイス

とても貴重な体験になると思うので、ぜひ参加してください。

Ⅳ. 進路

- ① 現時点での進路（A T J の継続、就職先など）

同志社女子大学住生活学研究室助手のアルバイト、京都市の公立中学校の非常勤講師

- ② 将来の夢

現在は、家庭科の教員を希望しておりますが、また何年後かには海外で長期滞在したいです。

2012年度 ATJ体験記

氏名：C. S.

卒業年月：2012年 3月 卒業学部・学科： 学芸学部 日本語日本文学科

派遣先学校名：Warrnambool Primary School

ATJの期間：2012年4月15日～2013年3月27日（更新なし）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

英語を話す機会がほしかったので、1年間ほど前から英会話教室に行っていた。日本語に関しては特に何もしなかった。出発直前まで学校側と連絡が取れなかったため、連絡をするようになってから、具体的にどのような授業をするか等聞いて、授業で使えそうなものをお土産として持っていったくらい。（自分の写真、水風船、豆まきのセット、シール等）

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

ビザ申請は自分で行ったが、初めてのことでわからないことばかりで大変だった。自分で申請するという友達がいたので、その子と相談し合いながら何とか取得することができた。かなりぎりぎりにビザが下りたので、周りの人にも心配をかけたと思う。

③ ATJとして経験した具体的業務

教材探し、教材作り、資料のコピー、教室に貼るポスター作り、プライズの賞品作り、発音練習、会話練習など。日本語の先生のサポートから授業準備まで、とにかく何でもする。授業は日本語の先生と2人で作っていくという感じだった。

④ ATJ以外の活動

学校の行事には積極的に参加した。「いろいろな体験をしたい、〇〇に行ってみよう」という話をしてアピールをすることで、サーフィングクラブ、遠足等学校の先生方から誘ってく

れることもあった。

住んでいる地域で好みの習い事を探すのも友達が増えて楽しいと思う。(徒歩か自転車できか動けなかったので自分でいける範囲が狭いが。)

⑤ ホームステイ

4つの家族にホームステイしてもらった。4通りの家族のライフスタイルがあり、習慣があり、食生活があり…本当に貴重な体験することができた。何よりも大切なのは、違いを楽しむこと、感謝の気持ちを忘れず、それをことばや態度で伝えること。日本食はどの家族でも作ってと言われるので作ったが、小学生がいる家庭では巻き寿司や日本食というだけで、魚やライスというイメージがあるようで、一口も食べてもくれない子もいた。作る際には食べられないものなどのリサーチもあるといいのかもしれない。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

気温差が激しく、1週間の間に20度近く気温が下がる(上がる)こともあった。冬は乾燥がひどいので要注意。マスクをして寝るときもあった。夏は日差しが本当に強く肌が痛くなるほどなので、必ずサングラスや日焼け止めが必要だと思う。

私が住んでいた町は本当に田舎で治安も良かった。ホストによっては、夜暗くなったら危ないから歩いて帰ってくるなという家族もあれば、歩いて帰ってこられるなら自分で帰ってきてという家族もあった。

⑦ 長期休暇の過ごし方

アシスタント仲間が集まって、ケアンズ、ウルル、ゴールドコーストに旅行に行った。クリスマス前にはみんなで集まってクリスマスパーティーもして、みんなでわいわいできてすごくリフレッシュになった。ホストが近場の観光地やブッシュウォークに連れて行ってくれることもあった。

II. ATJの感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

1年間すべて。何もかもが楽しかった。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

最初は生活に慣れず、英語にも苦戦した。自分の英語に自身が持てず、コミュニケーションをとるのに消極的になったこともあったが、ホストや日本語の先生が助けてくれた。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

- ・何でも物を投げること。(子どものランチとして作ったサンドウィッチを子どもに投げて渡すお母さんがいたり、鉛筆や消しごむを生徒に渡す際に先生がポンと投げたりもする。)
- ・シャワーが 5 分くらいで終るホストもいた。注意されることはなかったが、節水に気を使った。
- ・田舎と都会で使う英語がかなり違った。気づかないうちに都会の OZ が使わない英語を身につけていて、G-day! や See ya! は都会に住む友達に言うときびっくりされた。

Ⅲ. A T J 参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの (パソコン持参の有無も含めて)

PC はあると便利なので持っていくべきだと思う。インターネットのリミットがある家庭もあるので、それは最初にホストに確認を取るようにはしていた。浴衣も持っていったが、やはり日本らしいと思うようで実際に着るとすごく喜ばれるし、授業の中でも使えるので役に立った。

② これから A T J に参加しようと思っている後輩へのアドバイス

間違いなく最高の 1 年が待っていると思います。帰国後のことなど不安はあると思いますが、何事も経験してみなければわかりません。失敗を恐れずに挑戦して楽しんでください！

Ⅳ. 進路

① 現時点での進路 (A T J の継続、就職先など)

未定。就職活動をする予定。

② 将来の夢

このプログラムに参加することで、本当にたくさんの人に支えられ生活しているのだということを改めて感じました。1年海外で生活し、ホームステイをしてもらい、アシスタント経験をする。誰もができる経験ではないと思います。すごく恵まれたプログラムだと思います。家族や周りの支えてくれる人たちに感謝する気持ちを忘れずに、この1年の恩返しを少しずつしていけたらと思っています。

2012年度 ATJ体験記

氏名：S. T.

卒業年月：2012年3月 卒業学部・学科：学芸学部 英語英文学科

派遣先学校名：Fairhills High School

ATJの期間：2012年4月15日～2013年3月28日（更新なし）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

今まで、大学でAJTに参加するための勉強をしていたので、直前にした学習は特にありませんでした。中高生に見せるレアリアとして、こいのぼりのミニチュアやひな祭りのポップアップカードなどを買ったりはしました。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

渡航手続きの必要な書類を準備するのは全部で1カ月ほどかかりました。あと、国際免許証の発行、インターネットバンキングの手続きもしました。

③ ATJとして経験した具体的業務

授業の準備、補助、会話レッスンが主な業務でした。準備は長文や会話スクリプトやパワーポイントの作成、授業内では生徒の質問に答えたり、漢字(書き順、使い方)を教えたりしていました。会話レッスンでは全ての内容をアシスタントに任されていたので、レッスン計画から準備、復習プリント作りまでしていました。

④ ATJ以外の活動

ヨガ教室に通いました。

⑤ ホームステイ

2家族に半年ずつお世話になりました。どちらの家族も良い家族でしたが、家族によってアシスタントの扱い方が違いました。1軒目は割と私の自主性にまかせて、良い意味でほったらかしの家庭でした。2軒目は家族でカフェに行ったり、買い物に行ったりなど、一緒に過ごすことが多くて、1軒目とはまた違った感じで楽しめました。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

私は治安面では特に問題がありませんでした。けれど、やはり夜道やおそい時間は危険なので気をつけるに越したことはないです。

健康面では風邪をひいたり病気になったりはなかったのですが、体質が変わったのか原因不明の蕁麻疹が度々出ていました（たぶんアルコールか海鮮）。

生活習慣が変われば体質が変わることもあるので注意してください。

⑦ 長期休暇の過ごし方

友人とは旅行をしたり、アクティビティに参加したりしました。

ホストファミリーとは映画を見たり、一緒にお出かけをすることが多かったです。

II. ATJの感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

毎日、全てがすごく新鮮で楽しかったです。どれが1番というのは決められませんが、休日、アシスタント仲間と集まってランチをするのは毎回とても楽しかったです。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

思っているような内容が英語で伝えられなくてもやもやしました。また、学校で働くということ自体初めての経験だったので、慣れるまで何をしたらいいのか分からず困りました。でも慣れてからは自ら仕事を見つけたり、レッスンにアイデアを取り入れたりすること

が出来たので充実して過ごせました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

レギンスをボトムスとして履いている生徒がたくさんいてびっくりしました。
日曜日にはどんな町中でも6時にはほとんどのお店が閉まってしまいます。

Ⅲ. A T J参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

メルボルンは気温の変化が激しいので、カーディガンなどの羽織物やストールがあれば便利です。パソコンは持って行きました。無線 LAN が使える家庭だったので線はいりませんでしたが、念のために持って行った方がいいかも知れません。

② これから A T J に参加しようと思っている後輩へのアドバイス

本当に行きたいなら、ぜひ挑戦してみてください。きっといい経験になります。
英語が出来るに越したことはないですが、日本語の知識はあった方がいいです。

Ⅳ. 進路

① 現時点での進路（A T J の継続、就職先など）

現在、就職活動中です。

② 将来の夢

一度社会に出て視野を広げてから、また日本語教育関係に進みたいと思っています。
日本語だけでなく、文化や技術など日本のいいところを世界に伝えていきたいです。

2012年度 ATJ体験記

氏名：T. T.

卒業年月：2012年3月 卒業学部・学科：学芸学部 英語英文学科

派遣先学校名：Mentone Girls' Secondary College

ATJの期間：2012年4月15日～2013年3月28日（更新なし）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

丁寧な英語を習う本、日本文化について英語で書いた本をぱらぱら見たり、TJFLプログラムに参加して日本語を教えたときに使った資料に目を通したりしました。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

VISAに関しては、最初は自分で手続きを進めていましたが、出発まであまり時間がなかったこと、VISA発給の遅延がありうることを考えて結局JTBビザトータルサポートを申込みました。オーストラリアに行って他大学から来たアシスタントたちと話していると、神経質にならずに自分で最後までやればよかったなと思いました。

健康診断は何かと条件もあるし指定病院で予約して行かなければならないし、留学に行く人たちが受ける時期と重複するので、資料をよく読んで早めに受けることをお勧めします。

③ ATJとして経験した具体的業務

授業補助、見回り、授業中の会話練習、作文の添削、小テスト作り、12年生との個別の会話練習、12年生の研究の資料集めの手伝い

④ ATJ以外の活動

特にありません。

⑤ ホームステイ

2 家庭にお世話になりました。どちらも 7 年生の家庭でした。治安が良くて富裕層が多い地域で、駅やバス停、スーパー、おいしいカフェも徒歩圏内だったのでとても便利でした。最初はいろいろな習慣・ペットの飼い方（私は犬が苦手なのですが、最初のお宅は仕事の関係で多い時で 10 匹近く家の中にいました）などでなかなか大変な思いをしましたが、日が経つにつれて何でも慣れていきました。日本にいてもそれぞれの家庭で様子や生活が違うのに最初はそれに拒否反応を示してしまいました。でも受け入れてもらっているのは私で、自分の基準を相手に要求するのは違うなと思って、「まあこういうこともあるか。こんな感じの生活もあるのか〜」とのんびりかまえられるようになってからは本当に楽になって毎日が楽しくなりました。気を遣いすぎると自分ひとりが疲れて悩むだけなので、気を遣いすぎず楽天的になることがコツかなと思いました。でも最低限のマナー、迷惑はかけないこと、感謝を忘れないこと、自分でできることは自分ですること、ちゃんと会話の時間を持つことは必須です。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

どんな地域に派遣されても暗くなってからは 1 人で出歩かないほうがいいと思います。比較的治安のいいメルボルンですが、恐ろしい事件がいろいろなところで起きるようになっていきます。日本で危ないことは現地でもしないのが賢明です。

健康面は常備薬を持っていったので、あれ？と思ったら早めに飲んでいました。あとは早く寝てストレスをためずに上手に気分転換をするのに限ります。薬より何より気分の浮き沈みをできるだけなくすことが楽しくストレスフリーで過ごす秘訣かなと思います。

⑦ 長期休暇の過ごし方

他のアシスタントたちと旅行に行ったりホストファミリーと一緒にホリデーハウスに行ったり、友達と小旅行に行ったり自分のやりたい勉強をやったりしました。あまり大型の旅行はせず、のんびり過ごすことが多かったです。

Ⅱ. A T J の感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ひとつのことを選び出すのは難しいのですが、最後の3、4カ月が一番充実していて毎日が本当に濃くて楽しかったです。自分の英語の変化も感じられるようになってきた時期だったし、学校での立ち回りも分かって先生たちや生徒とも関係が築けてきたのが実感できる毎日だったからです。最後に「あなたが一番他の科目の先生ともコミュニケーションを持てたアシスタントだった」と言ってもらえたのは、受け入れられていたんだな、場になじめていたんだなと感じられてとてもうれしかったです。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

最初の1カ月はとても長く感じられました。学期始まりで先生たちはドタバタしていてアシスタントに構う時間もなかったので、自分だけ何をしたらいいか分からずポツンとスタッフルームで座って過ごした最初の数日間は本当につらかったです。

7・8年生は外国語が選択必修なので、あんまりやる気がない生徒もいます。そういう生徒にひどく悪態をつかれて自分では対応しきれなくて、あとで先生に慰められたときはトイレでこっそり泣きました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

大なり小なり違いを感じることは毎日あった気がします。でもマイナスな意味でのカルチャーショックはそんなにありませんでした。オーストラリアだからというよりそれぞれの家庭の生活スタイルで違いを感じることのほうが圧倒的に多かったです。

カフェに行って店員さんに「このマフィン何味ですか？」と聞くと「えっとー、何味かな？分からないなー。でもおいしいんじゃないかな！」と言われることがしばしばあって、それはおもしろい日本との違いでした。だいたい「なるほど、こういう考えもあるのか」とか「へえー、そういうのもありなんだ」とか「まあいっか」「なんとかなるか」で乗り切ることができました。

Ⅲ. A T J参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは絶対あると便利だと思います。家で作業しようと思えばできるし、暇なときは映画を見たりインターネットで調べ物をしたりできるので。ipod touch も大活躍しました。家族や友達とLINEで連絡が取れるので重宝しました。家の中のwifiや公共の無料wifiスポットも多いので便利でした。洗濯のネットも役に立ちましたが、わざわざ買って行かなくてもメルボルンのシティにはダイソーがあるので現地で買えます。100均にあるものは買わなくても現地調達できますよ！

② これからA T Jに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

1年近くもオーストラリアの実際の教育現場に入れてもらえることは本当に貴重な機会だと思います。新卒で就職してもA T Jに参加してもどちらも勉強になるのは変わりありませんが、海外の日本語教育に興味があるならぜひ参加したらいいと思います。個人的な意見として、参加する方には英語力はもちろん少なからず日本語教育の知識をぜひ持ってほしいです。応募の条件にしてもらいたいぐらいです。日本語が母語なら日本語が教えられるというわけじゃないし、そのほうがもっと学校や生徒の助けになれるし吸収できることも多いからです。名の通った企業を目指している、絶対正社員として後々働きたいなら新卒で企業に入るのを選ぶほうがいいと思います。

A T Jは余暇に行けるのではなく、責任感を持って任されていることをこなす点では新卒の就職と同じです。生徒はアシスタントといえども先生として迎えてくれます。セカンダリーの11, 12年生にとっては将来の進路が決まる大事な試験勉強の手伝いをしてくれる人です。ビクトリア州や学校、ホストファミリーは様々なサポートをしてくれます。ですからそれを最大限に生かして生徒や先生に尽くしてほしいと思います。あと派遣される学校によって住む場所が全然違うのでそれは知っておいたほうがいいかなと思います。シティから30分ぐらいの地域の場合もあれば、電車も通っていないようなシティから高速で4時間かかるところの場合もあります。どこに行ってもいい経験になると思いますが、どんな生活、経験をするかが劇的に変わります。

7年生から12年生までの何百人もの生徒、いろいろな科目の先生、ホストファミリー、新しくできた友達など、A T Jに参加して出会った人たち・その人たちと過ごした時間は私

にとって宝物です。私の考え方にすごく影響を与えてくれました。行っている間もいろいろ悩むときもありましたが、今はA T Jに参加して本当によかったと思っています。

IV. 進路

① 現時点での進路（A T Jの継続、就職先など）

現在オーストラリアでの大学院進学を目指して勉強しています。

② 将来の夢

メルボルンに住んでセカンダリーでまた教えたいです。

2012年度 ATJ体験記

氏名：H. W.

卒業年月：2012年3月 卒業学部・学科：学芸学部 英語英文学科

派遣先学校名：Brauer college

ATJの期間：2012年4月19日～2013年12月21日（更新なし）

I. ATJレポート

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

学校が決まって Brauer の先生方にメールをした時に、アシスタントの方には毎年日本の行事や文化についてのプレゼンを生徒の前でもらっているの、あらかじめ準備をしていたほうがいい！と返信をいただいたので、各月の主な行事を調べていきました。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

私はビザの手続きを JTB ビザトータルサポートに頼んだので JTB の方に必要な書類を送っただけでした。とても楽ですが値段が高かったので、自分でビザの手続きをした友達の話を聞くと自分でやればよかった、と思いました。

③ ATJとして経験した具体的業務

主に12年生のVCEの試験で行われる会話練習の相手役でした。過去のVCEで質問された資料を先生方が貸してくださったので、それを参考に、さらにそこから発展させていろいろな質問の仕方で練習しました。

④ ATJ以外の活動

日本語の授業がない時に他の教科を受けている生徒を見学させていただきました。

⑤ ホームステイ

私の家族はホームステイのベテランで私の通っていた学校の数学の先生だったので、すごく可愛がってくれました。愛にあふれる家族で私も本当の家族の一員のように思ってくれていました。9か月間ずっと同じホストファミリーでした。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

特に注意せずにごしました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

A T J の友達とケアンズに行きました。

II. A T J の感想

② 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

Term3 の最後の一週間から20日間11年生の希望者が行く Rock to Reef の修学旅行に参加しました。オーストラリアの主な観光地をバスでまわり、テントで寝たり、野宿したり、驚くことたくさんでしたが、とてもいい経験でした。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

たくさんの生徒が質問をしてくれても私の英語力が足りなくて説明できなかったり、言っている意味がわからなかったりすることがよくありました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

チョコやポテトチップスなど私たちの一週間分?と思うくらいの量を一日でペロッと食べていて、そのかわり3食の食事がすごく軽かったことです。

Ⅲ. A T J参加希望者へのアドバイス

①日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

スープやラテ、ラーメンやカレーなどのインスタントはとても重要でした。私は追加で母に何度かインスタントの物を送ってもらいました。特に私は田舎だったのでアジアの食品を売っているスーパーも小さくてなかなか食べたいものが手に入らなかったのですが、メルボルンなどにはたくさんあるようなので心配ないと思います。私は食べ物以外欲しいと思う物はありませんでした。

② これからA T Jに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

Brauer の先生は大事なのは英語力より学校を休まないこと！とおっしゃっていました。私はとても自分の英語力が心配でしたが、その一言で頑張ろう！と思えたし、わからないことがあれば先生に聞くと訳してくれてそこから自分の考えを伝えることができました。

Ⅳ. 進路

①現時点での進路（A T Jの継続、就職先など）

決まっていません。

② 将来の夢

日本で教師になればいいなと思います。